

北海道医歌人会詠草

労災リハビリテーション 北海道作業所閉所

美唄 吉村 誠治

脊損の社会復帰に努力せし三十七年静かに閉じる
脊損の頸椎損傷増へたれば条件満たさず入所者減れり
車椅子バスケットボールで名を挙げし北海道作業所誇りしものを
車椅子マラソンでパラリンピックに出場せし室塚君も入所者なりき
脊損も時代と共に変わり来て炭鉱事故なく交通事故多し

キタコブシ

札幌 浜島 泉

センセ見てひいきの投手ブロマイドまはらぬ舌で回診医師に
型どほり背すじ伸ばして歩く人かれはウオーク我は通勤
翁草開くと見せて頭振りともどひ揺るる雲行きの朝
白樺の花粉のせいと鼻を拭く春の風情とダジャレを言ひて
薄紅の萌木に染まる藻岩山白く彩りキタコブシ咲く

別れの言葉

釧路 児玉 昌彦

「長いこと・やさしい夫ひとでありがとう」いまはまわの際の愛の告白
心こもる妻の言葉の届きしか末期の涙が別れとなりぬ
紅と燃ゆる恋にはあらねども歳月重ねし愛のフィナーレ
偶然が二人の人生引き寄せてここまで来れた不思議な気がする
「人生を付き合ってくれて有難う」君に言ふべき別れの言葉

夏の日

美唄 高田 剛太

一陣の夏風となりて少女らはホームステイを終へて去りゆく
青空に鶴一点の白となり釧路湿原夏の朝明あかく
垂れこめし夏雲の間に陽の射して鈍にぶの海ゆく小舟輝く
羊蹄をうす紫に染めあげてニセコの夏は暮れてゆきたり
潮風に汝なが黒髪のたなびくをただ見つめるし遠き夏の日

年金対策

札幌 山口 康徳

云ひ交す言葉判わかぬに居まを構へ妻子殺めし外人とくにあはれ
事故を機にシグナル造る人々の胸中むね去来するは苦か悲しみか
疲弊せる地方救はむとあわてつつおそまき乍ら腰拳こぶしぐトッブは
社会の波に流されたるや乗務員頻繁続く事故はその産物うぶ
高齢者年金対策杜撰ずさんなりそを是正して希望もたせよ

文庫本

札幌 小国 孝徳

五百冊並べる最初の文庫本「坊ちゃん」なりしか「キタセクスアリス」なりしか
箱も背表紙も日に灼けしへっせの十六巻再読しても青春は戻らざるべし
窓の辺の鴨川の流れの冴さえてるき「奥の細道」読み合ふ夜々を
評釈をしつつ友らと読み合ひし「奥の細道」ぼろぼろに古ふるる
何章か諳しんんずるまで読みし「徒然草」合格してより聞くこともなし

後期高齢者

札幌 古屋 統

税負担せめて埋めむと働けばあくる年また税筆しるしらるる
持病なく日頃服薬なき者も同じ保険料を天引きさるる
妻いまだ適用年齢に達せねば保険料合計前より高きか
紅葉マーク貼らねば違反を問ふといふ運転免許未だ返したくなし
詰寄りて大臣に政策の非を糺す後期高齢者まだまだ若し